

# 情

五年

回数 11  
筆順

ハヤハヤ性情  
シヨウ・セイ  
なさいけ

成り立ち



「清らか」という意味を表した「青」と、「心」の意味の「心」とを組み合わせて作った字です。

「清らかな心」という意味の字で、世の中の悪にまららない「思いやりの深い心」「なさけ深い心」を表した字です。【例】人情、愛情、情味、薄情。

単に、「心」「心の動き」「心の様子」の意味にも使います。【例】心情、感情、旅情。

「様子」「ありさま」の意味にも使います。【例】情況、世情、民情、政情。

また、「味わいのある」「様子」（おもむき）の意味にも使います。【例】情趣、風情。

使い方

▽世の中には、人情の無い人もいますが、「情けは人のためならず」で、情味のある人は、たいてい人からも愛情を受けて、幸せな人生を送ることが出来るものです。

熟語例

- ▽人情（思いやりの心。情け。また、「世の中のみつうの人の心」という意味にも使います。）
- ▽情味（人情味。人情の味わい。）
- ▽薄情（人情が薄いこと。思いやりの心が無いこと。）
- ▽感情（物事に感じて動く心の様子。喜んだり怒ったりする快不快の気もち）
- ▽世情（世の中の様子。世間のありさま）
- ▽政情（政界の様子。政治のありさま）
- ▽情趣（情も趣も、「おもむき」。深い味わい。おもしろみ。【例】情趣のある光景）
- ▽風情（風流な味わい。おもむき。【例】閑静な風情を楽しむ。また、「様子」「ありさま」という意味にも使います。【例】花が雨に打たれている風情）

# 織

五年

回数 18  
筆順

糸 緯 織  
シヨク・シキ  
おひる

成り立ち



「音」と、「しるし」という意味の「弋（式年316）」と「しるしの音」という意味を表した「織」と、「糸」とを組み合わせて作った字です。

「しるし」のつけられた糸」という意味の字です。しるしをつけた糸は、織機にかけられて織られ、布になります。それで、「織る」という意味に使われます。【例】織物、織機、紡織、染織。

また、「組み立てる」意味にも使われます。【例】組織。

使い方

- ▽昔は、たいていの家で、機を織って布を作り、それで衣服を作りました。
- ▽何をすることも、まず組織を作ることがたいせつで、組織さえあれば、あとは自然とうまく進行します。

熟語例

- ▽織物（糸を織って作った物。ということで、「布」のことを言います。）
- ▽織機（布を織る機械のこと。単に「機」とも言います。）
- ▽紡織（糸を紡ぐことと、布を織ること。）
- ▽染織（糸を染めることと、布を織ること。）
- ▽交織（種類のちがう糸を交えて織ること。【例】この布は麻とナイロンの交織です。）
- ▽組織（糸を組んで、布を織る」という意味のことばですが、何人かの人が組んで、一つの目的に向かって仕事をする団体のことを言います。また、生物の細胞がたくさん集まって、一定の働きをする場合、これも「組織」と言います。「器官」はこの「組織」がいくつか集まって作られます。）